

国語 文学部、教育学部、経済学部

一 現代文

- 問一 a カタヨ b ヒボウ c 採択 d 浸透(滲透) e サカノボ f 配慮 g ホウセツ h 發揮  
i ソガイ j 促進

問二 幸せとは何かが検討されないまま開発された情報通信技術が、人々の心身を常に緊張状態に置いたり、分断の状況を生むなどを抑圧するような問題を生み出しているから。(八〇字)

問三 ウェルフェアは社会的弱者を、その固有の状況を考慮せずに、福祉の対象として保護し救済するのに対し、ウェルビーイングは個人を固有の状況を持つ能動的な主体と捉え、その自律的な活動や自己実現を通して、より豊かな福祉を実現する。(二〇九字)

- 問四 A イ B ウ C ア D ウ

問五 個人の心の中に生じる心身が良好な状態を対象とする個人主義的な視点ではなく、集団的に価値をつくりあうという考えに基づく集産主義的な視点に立つことで捉えられる、人と人との間やコミュニティと公共の場に生じる心身が良好な状態。(二〇九字)

問六 曖昧なウェルビーイングの状態を、診断を通じて測定可能なものとするなどして精細に捉えること。(四十五字)

二 古文

問一 ア 私は体調が悪いのを我慢してあなたの所にやって来たよ。あなたのことが気がかりだから。

イ 内裏へも参上していないのに、このように出歩いてあなたの所を訪れていたのだなあと人に見られるようなものも不都合にちがいない。

ウ 喪服の仕立てを断ったことに以前にもまして夫は不機嫌な様子で、まったく私への伝言もない。

問二 夫兼家は体調が回復したはずなのに、来訪はおろか音信さえない日々が続くため、表面上は平静を装い続けるものの、内心は、夜になると外から聞こえる牛車の音に夫が逢いに来てくれたのかと心乱れながら、結局夫の来訪がないまま夜が明けてしまうことに、あきれ情けなく思う心情。

問三 (A) 夜のうちに降った雨で松に露がかかるように、夜のうちは、訪れない夫を待つ私の流す涙が袖にかかることよ。夜が明けると消える露のように、朝になると私もはかなく消えそうなほど物思いをすることだ。

(B) 私と同じように鶯も終わりのない物思いをしているのだろうか。六月になってもいつまでも鳴いている鶯の声が聞こえるが、私も尽きることはない物思いで声をあげて泣いていることよ。

三 漢文

問一 a ますます b しかるのちに c なき

問二 荀子の書を以て大醇小疵と為す。

(別解…荀子の書を以て大醇にして小疵なりと為す。)

問三 まっすぐな木が、曲がったものを伸ばす道具を用いるまでもなくまっすぐであるのは、その木の本来の性質がまっすぐだからである。

問四 そもそも、もし荀子が人の本来の性質に善と悪とがあることを理解していなかったならば、木の本来の性質に曲がるものとまっすぐになるものがあることを理解していなかったはずだ。

問五 豈に真に性を知らざらんや。

問六 余因りて以て荀子の世大いに乱れ、民胥泯禁するに遭ひ、感激して此を出だすを悲しむなり。

問七 荀子の性悪説は後世に批判されている。荀子は曲がった木が道具によってまっすぐになることを例にして、本性が悪である人間は教化によって善人となると説いているが、本性が善である人間の存在を知らなかったのではない。乱れた世に混乱した人々を見て発奮し、教化によって善に導き、その考えを広く通用させようとしたのだ。(二五〇字)